

# 静岡北特別支援学校と県協働

## 麻機遊水地保全へ

県立静岡北特別支援学校(横山孝子校長)は2014年度から県

静岡土木事務所などと協働で、静岡市葵区の麻機遊水地の整備、保全活動に乗り出す。作業学習の一環として取り組む予定。同土木事務所は遊水地の環境保

全の新たな担い手として期待を寄せている。

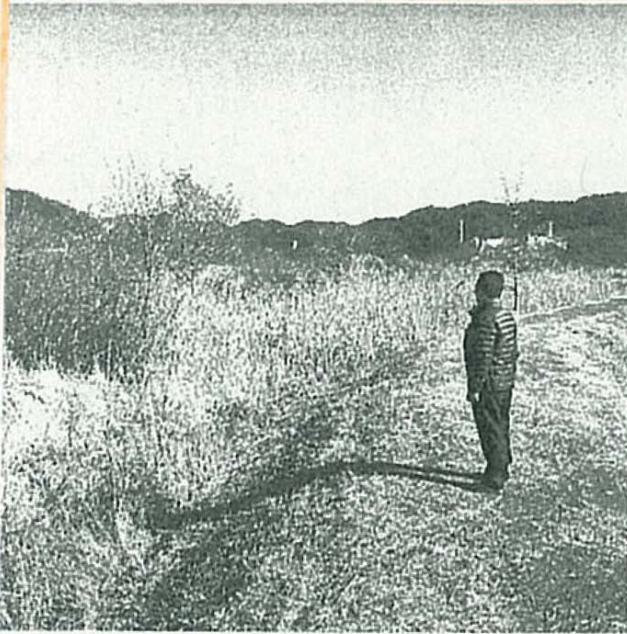
同校は同土木事務所から、遊水地で減少するハスの再生試験栽培や、遊歩道の除草と間伐材チップを活用した舗装、草木を使った製品作りなどの作業提案を受け、実務内容の検

討を進めている。土木事務所によると、遊水

地の保全活動はこれまで、行政や民間団体が連携して取り組んできた。近年、外来の動植物が増え、水域が狭くなるなど環境悪化が進み、民間団体会員の高齢化などで対応が難しいという。このため、保全に生徒の力を借りることになった。

同校の高等部は14年度、生徒数が20人程度増える見込みで、現在ある印刷や工芸などの

作業班に加え、麻機遊水地での作業班を新設する方針。学校関係者は「地域での協働作業



別支援学校が作業学習の一環として保  
 検討している麻機遊水地＝静岡市葵区

る」と語る。

同事務所の大石守伸の自然をよみがえらせたい」と話している。河川改良課長は「生徒

の力を借りて、遊水地